

Topic 1 展示場の新ブランド「MOPAQ」の展開による変化

だれもが気軽に立ち寄れ、滞在できる展示場を目指して、現在、展示場のリニューアルを進めており、リニューアル後の展示場は、「MOBILE SPACE」に「PARK(公園)」を組み合わせた新しい展示場ブランド「MOPAQ(モパック)」として展開しております。現在52店舗のリニューアルを実施いたしました。

展示場デザインの変化

MOPAQのコンセプトとして「小さな動くまちづくり」によって地域社会に貢献することを目的としています。地域の賑わいを活性化できる空間づくりを基本条件に、配棟計画や外構計画を行っています。展示場のそれぞれの地形や地域性の特長を活かして設計しながらも、標準化のために展示品は数パターンのモデルから選択しています。MOPAQの根幹となる「訪れる人々が、豊かな人生とは何かを問う」ために、モバイルスペースとランドスケープを調和させた居心地の良い空間を提供し、長期的にはモバイルスペースの可変性を活かして、ランドスケープも含めモバイルできるお店づくりを目指して参ります。

顧客の変化

MOPAQへのリニューアルに伴い、ご来場される顧客層も大きく変わりました。ご来場されるメイン業種が大きく変化し、建設・製造・運送関連業等のご来場に加え、飲食やサービス業のご来場が増えています。来場組数も急増し、リニューアル後の平均来場組数は2.6倍になり、4組に1組は女性のご来場をいただき、女性も入りやすい店舗に変化しました。また店舗やオフィスのニーズが1.5倍になるなど、店舗をお求めになる方が増えています。MOPAQの展示品を活用して進めているレンタルスペースも、現在45店舗で展開しており地域の皆様にカルチャー教室やエステ・施術のチャレンジショップとしてもご利用頂いております。お客様の業種や求めるニーズも大きく変わりつつあります。

接客の変化

展示場の変化、お客様のニーズの変化に伴い、お客様のニーズに沿った提案力を身に付けるため、新しい接客モデルに向けた活動を昨年9月から開始しています。接客台本の作成、デジタルツールとしてCADの活用、ニーズをより把握する手法などを中心に、座学と実践を繰り返し、付加価値をより高めた接客の標準化に取り組んでいます。



東大総合展示場



水戸総合展示場



接客風景



レンタルスペース・生付花教室

Topic 2 地域に密着した施工事例

「名古屋市立大学カフェテリア」

名古屋市立大学にて、学生の新たな交流スペースとしてカフェテリアを整備するプロポーザルが実施され、元々お取引のあった建設会社、設計会社からお引き合いを頂き、企画提案段階から参加いたしました。「つなぐ、ひろげる」というコンセプトのもと、半屋外空間として屋根のかかったテラスを提案したいというご要望があり、在来建築で大屋根をかける案も出される中、ちょうどインナーバルコニーという製品がMS LABやMOPAQで建設され始めた時期だったため、施工イメージ写真を使いながら積極的に提案いたしました。モバイルスペースの端正でシンプルなデザインが大学キャンパスや周辺住環境になじむと言ったご意見もあり、審査に当選し、ご採用いただきました。

学生も企画打ち合わせに参加する案件のため、工期が短く打ち合わせ期間を多くとることが出来る点もご評価いただきました。10年ほどで解体するという条件もモバイルスペースのリユース性が合致しており、まさにニーズに適合した案件だったと感じます。

「館林市商業福祉連携施設」

中央通り線沿線の民地を活用して、創業者支援と福祉施設の販路拡大支援といった機能を融合した施設を設置することによって、多様性を尊重し、居心地の良い歩きたくなる、まちなかを発信する拠点をつくりたいという館林市のご要望がありました。

館林市内目抜き通り(本町通り)に活気を取り戻す意味で館林市役所都市計画課と商工課が連携して計画したモデル施設です。商業は和菓子の名店「あかねね」と麦落雁の老舗「三樹屋」、福祉は社会福祉法人館林会(主に障がい者福祉)が運営するパン屋さんが出店いたしました。ここをモデル施設として今後の展開を検討中、将来的な計画では撤去解体も想定されており、当社のモバイルスペースの特徴である、いらなくなれば引き取ることも可能な利便性が決め手となりました。周りの住民からは、こういった街の振興につながる建物は素晴らしいとお褒めの言葉をいただきました。



カフェテリア外観



カフェテリア内観



施設外観



施設内観